

国語科 遠隔学習指導 実践報告

1. 学年と単元 2年「言葉の研究室（文法の学習～1年生の復習～）」

2. 教材について

(1)実践の背景～Moodleを用いた遠隔学習指導

お茶の水女子大学では、遠隔学習のプラットフォームとして Moodle を採用している。児童生徒の保護の観点から、Zoom 等の同期型システムの使用が不許可となり、Moodle の双方向学習の機能も使用不可またはごく制限された形でのオンデマンド型授業中心となった。また私自身は Moodle によるオンデマンド型授業は初めての試みであり、各機能の使い方を学び、授業への活かし方を考えるところからのスタートだった。

(2)カリキュラムマネジメントの視点から

今年度初めて担当する生徒でもあり、当初は授業ガイダンスと「漢字で自己紹介」から入る計画をたて休校中の課題でも準備を行わせていた。その実施が困難な状況にあたり、

- ・ Moodle の各機能の活用を試しつつ、遠隔学習に適した授業展開等の在り方をさぐる。
- ・ オンデマンド型の授業スタイルを試みる上で、無理がなさそうな内容・題材で始める。
- ・ 生徒の一年次の学習状況や知識・技能の定着状況を把握しつつ始められる。

などを主な理由として、文法学習からのスタートを構想した。

(3)探究的な学習の視点から

1年生の文法学習を復習していく上では、次の①～③を重点とした。

- ①文節の理解（単語・文節の基本的な概念が理解できているか。文節に分けられるか。）
- ②連文節の理解（連文節の概念、語のかかり受けを理解し、活用できるか。）
- ③文の成分の理解（文の成分の概念を理解し、文章解釈の基盤が作れているか）

その際、国語科では探究的な学習を生み出す上で、「なぜ？」と考え、「なぜ？」を切り口として思考や理解を深めること＝学習者としての生徒自身が「問い」をもって学習に臨むことを大切にしていこうことを話し合った。そこで本学習では以下に配慮して課題や展開を考えた。

◎自らの理解や定着を確かめつつ、どのように考えるかを自身に問い、つまづきを解消する。

- ・ 既習事項や周辺情報に関心を広げつつ、知識の構造化を図っていけるように促す。
- ・ 身の回りの言葉に働く文法を想起して、なぜ？なぜなら……という道筋で考えていく。

オンデマンド学習コンテンツの作成にあたっては、次の三つの工夫で主体的な学習を目指した。

- ①授業動画での問いの投げかけ：既習事項の想起を促したり、生徒に自分の理解の確かめを促す。
- ②定着度が鮮明になる復習ミニテスト：小問ごとの正誤で内容語との理解度がわかるよう作成。
- ③既習の文法知識を使って身の回りの日本語の特徴に気づく発展課題：「挑戦状」という名で意欲を高めつつ、文法知識で日常の言葉をふり返り意味づける課題（日本語はなぜ文節の語順を入れ替えても同じ意味を表せるか）を設定。

3. 本単元の目標／評価規準

(1)本単元の目標

○文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。[知識・理解(1)オ]

○1年生の学習を振り返って理解を確かめつつ効果的な考え方を学ぼうとする。[学びに向かう力・人間性]

(2) 本単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文節の概念を理解し、文節分けや文の成分を判別している。		学習を振り返って自らの理解をとらえつつ学習している。

4. 生徒の学習の実際

(1) 単元の展開

- 第1回 文法の学習1 「文節と文の成分」
- 第2回 文法の学習2 「連文節のおさらい」
- 第3回 文法の学習3 「自立語と付属語・体言と用言」
- 第4回 文法の学習4 「名詞の種類」

(2) 「連文節のおさらい」の学習を例に ～問いの内在化と、つまずきの解消による達成感～

①ビデオ視聴の学習で「問い」を内在化させる

「連文節」は日本語の文の構造を説明していく上で便利な考え方なのだが、これまでの指導経験からすると、中学生にはここが文節や文の成分を理解していく上でのつまずき処の一つとなっていると言える。理屈としてはわかったような気がする一方、実際に文の成分を説明してみようとする、連文節として説明すべきか、単文節のまま説明すべきか判断に自信が持てなくなってしまうのである。

第1回の授業では文節に分けることや五つの文の成分について復習した上で、図1の診断課題を課した。①～⑦について文節分けを行い文の成分を答える課題である。

①はごく基本の問題。人間（彼）が主語でその行動（吹いた）が述語。修飾語も単純である。実際 100%の正答率であった。②と③は構文は単純だが人間以外が主語になるケースで、動作の主体が人間や動物でないと主語として判断できない生徒が出てくるのである。④は「元旦」という独立語を主語と考えたくなる問題で、誤答率がぐんと高くなる。「(始まりの)日だ。」という述語の主語（何が）を探してしまうのである。

ここまでは理解度を測る診断ポイントはあるものの、多くの生徒が正答を得るが、⑤～⑦の連文節で判断する問題に、三つとも正答できたのは僅かに2名であった。⑤は重文構造の前段が接続部になるもの。⑥の誤答は「ひろし」という呼びかけ（独立語）を主語と誤るケースと、「持ってきてくれないか」の補助の関係を連文節で捉えられないケース。⑦の誤答は「祖母や母に」の並立の関係と「腹をたてていた」の補助の関係を連文節でとらえられないケースである。

第2回の学習では、診断テストの結果を最初に示すことからスタートした。これは、生徒達に「自分の理解のどこに課題があるか」という課題意識を引き出し、「どう考えたら良いか?」「どうすれば正答できるか?」という問いを内在化させることをねらった工夫であった。

②つまずきを解消して達成感を持たせる（理解のポイントを的確におさえる）

連文節の概念を理解する上で、生徒達のとつまずきのポイントになるのは、連文節の定義では無く、その運用の仕方だと考える。生徒たちは、「連なった文節がひとまとまりで一つの文の成分になるとき連文節という」という定義はわかるが、

【問題】

- ① 彼は愛用のフルートを吹いた。
- ② 公園から美しい歌声が聞こえた。
- ③ 今日は娘の誕生日だ。だから早く帰ろう。
- ④ 元旦、一年の始まりの日だ。
- ⑤ 船が日本の港につくと、バナナは倉庫に入れられる。
- ⑥ ひろし、そこの本を持ってきてくれないか。
- ⑦ わたしは祖母や母に腹をたてていた。

図1 診断課題

ア 連文節か連文節でないかの判断（考え方）に自信がない。

イ 連文節がある場合の文の成分の説明の仕方が腑に落ちない。

ウ 単文節で説明すべきか連文節で説明すべきかの線引きが知りたい。
という三つの「つまずきポイント」があるように思われる。

そこで、図2～図4の教材スライドを作成した。

図2は「文節の係り受け」という既習知識を使って、「連」の概念の理解を深めるためのスライドである。既習の知識を使うことで考え方の基盤を整理しようとしたものだ。「小さな夢です」は連文節だが、「私の小さな」は係り受けしていないから隣り合っているが連文節とは考えないという説明は、とてもわかりやすかったとの声が多かった。

図3は、「小さな夢です」が連文節と認められるとき、文の成分の判別の答え方について、単文節ごとに説明するのも、連文節として説明するのも、「どちらも正しい」というのが「目から鱗だった」という声が寄せられた。実際、どちらの説明も成り立つのだが、文の成分の判別では通例、図3のAの解答を求められることが生徒達の「わかった感」を妨げてきたのではないかと考えている。

そこで、「ではなぜ例文では連文節として「述部」と答えても良いのに、単文節ごとに成分を判別するように言われるのか？」という点について、「文の成分の説明上、連文節で説明しないとうまく説明できない場合（図4の三つのケース）は連文節で説明し、単文節で説明できる場合は、それぞれの文節の文の成分を答える」という運用のポイントを示した。

知識の理解にあたって、定義の理解というのはともすると概念の層での理解に終わりやすい。知識の運用ができるためには、運用上の判断ポイントを押さえつつ学べるように配慮することが必要になるのではないかと考えている。

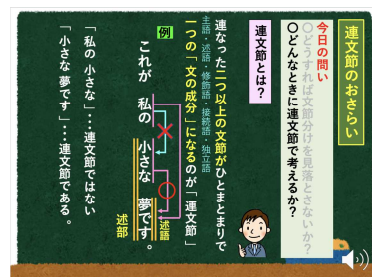


図2 連文節理解のポイント

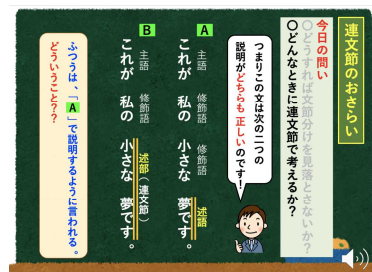


図3 疑問を解消する

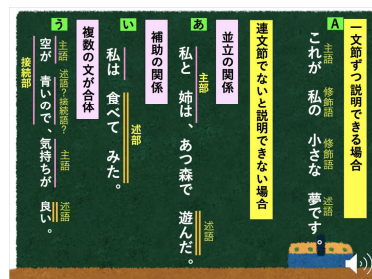


図4 知識の運用のポイント

5. 生徒の学習効果と展望

今回のビデオ配信によるオンデマンド型の学習では、「ここでビデオを止めてノートにメモせよ」という指示や、わかりにくかったところは「もう一度反復して視聴する」といった単純な指示が好評であった。

こうして自分のペースでの学習が可能という良さを活かしつつ、今回試みた「問い」を引き出す工夫や、

「つまずきのポイント」の分析の上で効率良い説明をしていくことの効果を、生徒達のアンケートからも感じることができた。こうした授業づくりのポイントは、遠隔学習には限らない。しかし、遠隔であればこそ、いつも以上に配慮が必要なポイントだとも感じた。

遠隔学習での効果的な授業展開や教材づくりのポイントを今後も工夫しつつ指導を探っていきたい。

とてもわかりやすかったです。まさに私のわからないところを的確に教えてくださって本当にありがとうございました。わからなかった主「語」と主「部」の違いがほとんどなかったことがわかりました。この授業は私にとっての革命でした。とても楽しかったです。

説明がわかりやすく、聞きやすく、楽しかったです。次の授業も楽しみにしています。挑戦状の答えなんですが、時間内に考えきれなかったのですが、予想をしてみたので書きます。文節であれば、どの順番になっていても(文節が)意味が通じると思います。

先生の説明は分かりやすく、覚えやすく楽しかったです。ありがとうございました。次の授業も楽しみにしています！復習もしっかりしたいです。挑戦状の答えなんですが...合ってるか分からないんですけど考えたのでここに書きます。文節に分けていればどこが最初でも最後でも意味が伝わるのかなと思いました。

今日は連文節について学びました。前回の課題では習っていなかったもので少しためらったけれどちゃんと理解できたと思います。連文節はやっぱり理解しても実際見分けるのは難しいです。なので慣れていくのみだと思います。後は、ノートの量が多くて2ページ半だったのですが余り下の段がうまりません。。。どうすればいいでしょうか？

図5 学習後のアンケートの一部

お茶の水女子大学附属学校園で使用しているMoodle画面から引用